

第6章 滝遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中・近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺

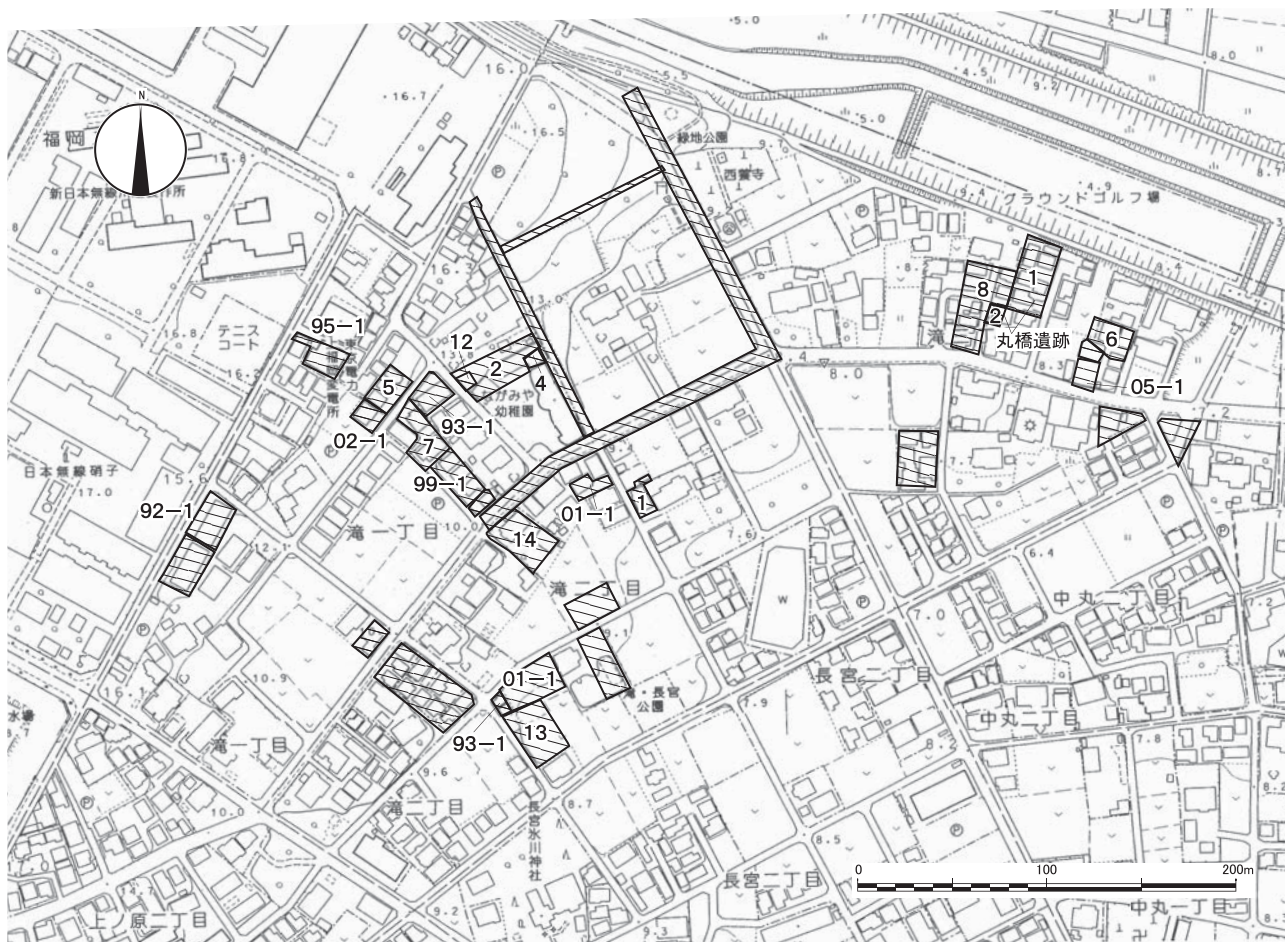
跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡（1981年の変更増補で滝遺跡と合併）で古墳時代前期と後期の住居跡を検出以来21ヶ所で調査が行なわれている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査(1)は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構（集石を伴う）である。

II 滝遺跡第13地点

(1) 調査の概要

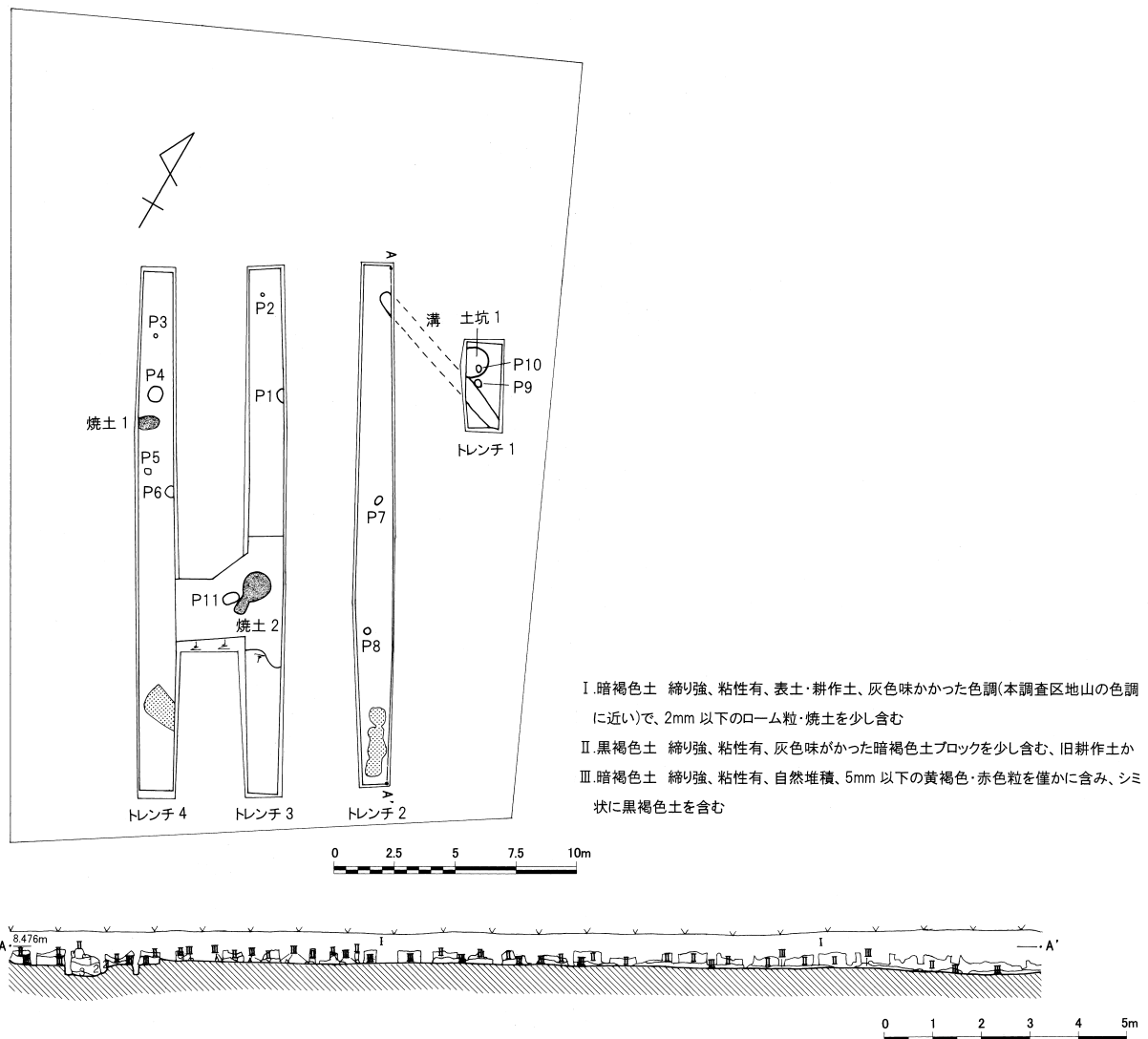
調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2007年9月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の外側に位置するが、申請者と協議の結果、遺跡範囲を確



第13図 滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第13表 滝遺跡調査一覧表

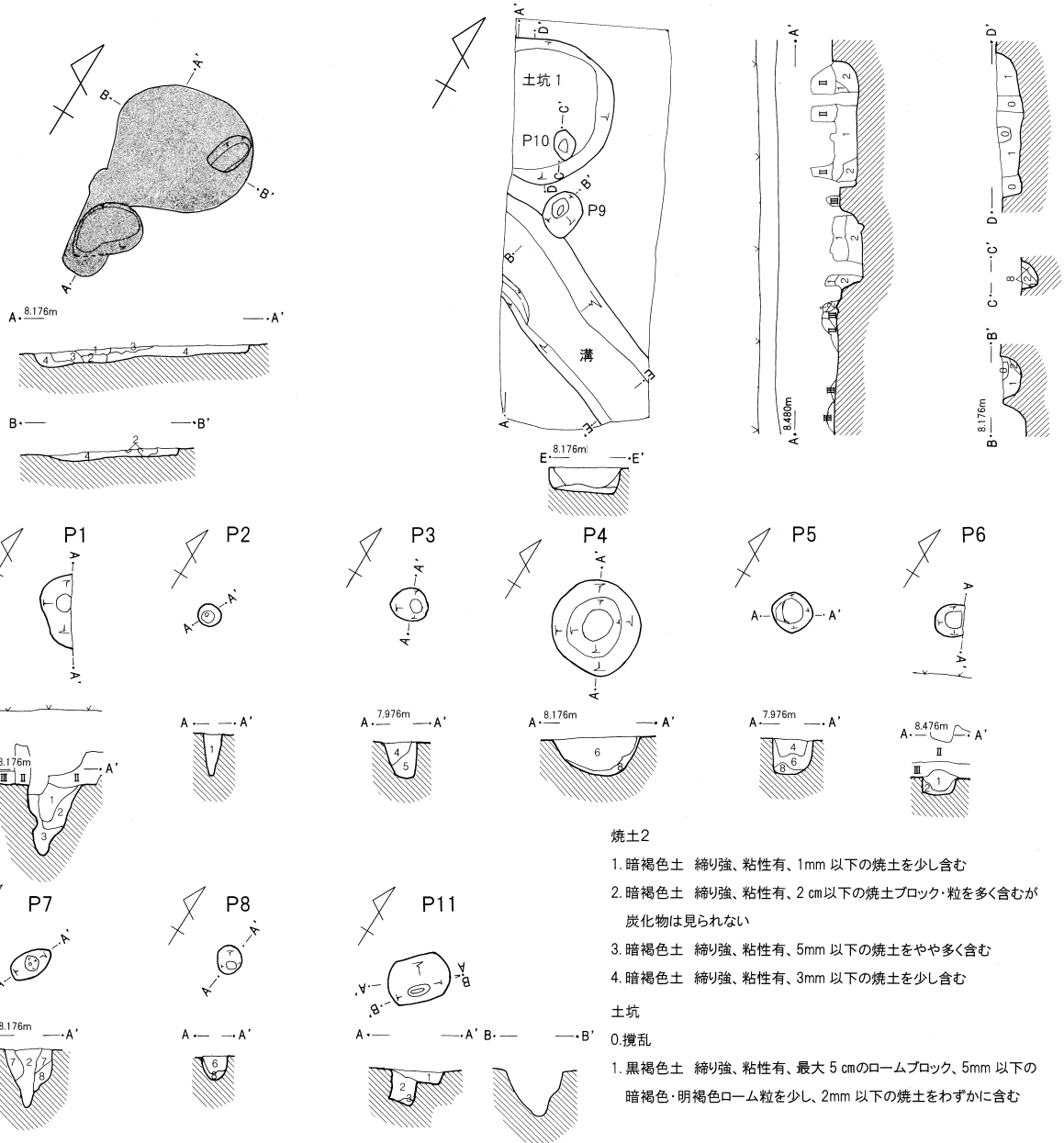
地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書	備考
丸橋1次	滝3-3-77~81	(1976.6.26~27) 1976.7.24~8.12	543	建売住宅	古墳前期住居1・後期住居1	上福岡市遺跡調査報告書	丸橋遺跡は滝遺跡へ統合
丸橋2次	滝3-3-13	1978.7.26~8.6	210	住宅建設	古墳前期土坑1、現代溝1	埋蔵文化財の調査(I)	
1次	滝2-6-11	1978.10.2~13	129	住宅建設	住居跡1、土師器	埋蔵文化財の調査(II)	
2次	滝1-4-2	1979.4.15~5.7	278	幼稚園プール	住居跡5、周溝、土坑、長甕、土器	埋蔵文化財の調査(II)	
3次	滝1-4-15	1980.6.27~7.3	76	住宅建設	権現山遺跡1地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(III)	権現山遺跡へ変更
4次	滝1-4-15	1980.7.7~12	105	住宅建設	遺構なし、平安土師器片	埋蔵文化財の調査(III)	
5次	滝1-3-21	1980.7.20~31	330	住宅建設	権現山遺跡2地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(III)	権現山遺跡へ変更
6次	滝3-3-6	1980.11.20~12.2	166	住宅建設	縄文土坑、奈良住居跡2、縄文早期土器、石器、奈良土器他	埋蔵文化財の調査(III)	
7次	滝1-1-19	1981.7.30~31	400	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	埋蔵文化財の調査(IV)	
8次	滝3-3-15他	1983.11.14~26	990	住宅建設	古墳住居2	埋蔵文化財の調査(V)	
9次	滝1-4-4	1984.5.11~22	466	住宅建設	権現山遺跡5地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(VI)	権現山遺跡へ変更
10次	滝1-3-17	1984.6.1~12	363	住宅建設	権現山遺跡6地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(VI)	権現山遺跡へ変更
11次	滝1-4-2	1984.6.28~30	33.12	物置建設	権現山遺跡7地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(VI)	権現山遺跡へ変更
12次	滝1-4-2	1984.12.22~24	94	住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(VI)	
1992年度試掘(1)	滝1-2-14の一部	(1992.7.6~8)	400	倉庫建設	なし	埋蔵文化財の調査(15)	
1993年度試掘(1)	滝1-1-4	(1993.4.23~28)	313.08	共同住宅	なし	埋蔵文化財の調査(16)	
1993年度試掘(2)	滝2-2-7	(1993.8.25)	99	個人住宅	なし	埋蔵文化財の調査(16)	
1995年度試掘(1)	滝1-3-13	(1995.11.27~30)	462	共同住宅	権現山遺跡14地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(18)	
1999年度試掘(1)	滝1-1-6	(1999.10.21~26)	511.09	宅地造成(土地分譲)	なし	埋蔵文化財の調査(22)	
2000年度試掘(1)	滝2-5-20	(2001.1.23~24)	154.7	個人住宅	なし	埋蔵文化財の調査(23)	
2001年度試掘(1)	滝2-2-8	(2001.4.17~20)	519.64	共同住宅	奈良初頭住居跡1	埋蔵文化財の調査(24)	
2002年度試掘(1)	滝1-3-49	(2002.5.29~30)	165	個人住宅	権現山遺跡17地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(25)	
2005年度試掘(1)	滝3-3-5・3-143	(2005.6.24~27)	350	個人住宅	なし	市内遺跡群1	
現地立会	滝1-4-1・26・27	(2006.4.15)	2,492	幼稚園	なし		
第12地点	滝2-5-3の一部、5-4の一部	2007.2.6	472	個人住宅	なし	市内遺跡群3	
第13地点	滝2-2-6	2007.10.24~11.1	737.7	共同住宅	焼土範囲2箇所、ビット8	市内遺跡群4	
第14地点	滝2-5-11・17	(2007.11.8~19) 11.20~12.6	692	分譲住宅	住居跡7軒、溝3条、井戸1基、須恵器、土師器	市内遺跡群4	



第14図 滝遺跡第13地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)

焼土 2

土坑 1、P9・10、溝



第15図 滝遺跡第13地点焼土・土坑・ピット・溝 (1/60)

認するための試掘調査を実施した。試掘調査は2007年10月24から11月1日まで行なった。幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。調査の結果、焼土範囲2ヶ所、土坑1基、ピット11基を検出した。遺構の時代は、覆土層の観察からピット6・9は縄文時代の可能性があり、その他は不明である。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構の確認・検出を行ない、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。遺跡の範囲について変更増補が必要である。

(2) 遺構と遺物

①焼土1・2

焼土1はトレンチ4で確認した。検出部の平面形態は楕円形で、規模は90×(50)cmの範囲に薄い焼土が広がる。焼土2はトレンチ3で確認した。平面形態は楕円形にちかく、2ヶ所に焼土ブロックが集中する。規模は198×124cmの範囲に焼土が広がり、深さは6.1～14.3cmである。

②土坑・ピット

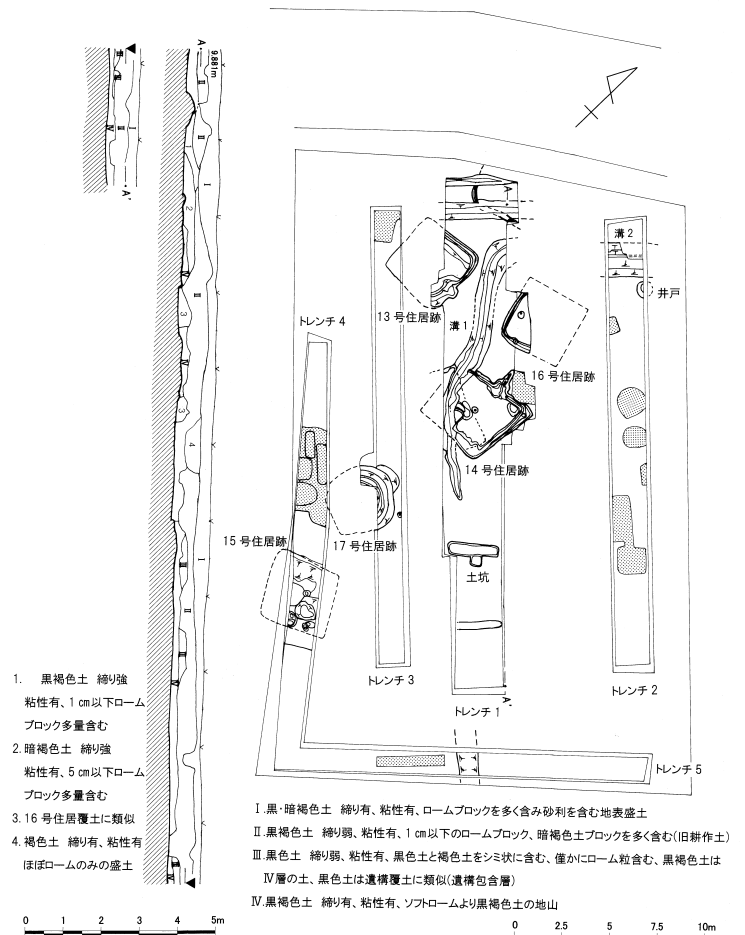
覆土層の観察からピット6・9は縄文時代に属するとみられるが、その他の遺構については不明である。

第14表 滝遺跡第13地点土坑・ピット一覧表 (単位cm)

遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑1	(円形)	125×(85)	103×(72)	24.3	
P1	不明	63×(27)	15	60.9	
P2	円形	21×20	4	39	
P3	円形	33×30	12×11	51.2	
P4	円形	83×77	28×26	37.9	
P5	方形	35×35	21×18	47.5	
P6	不明	28×(24)	17×15	17.8	縄文
P7	楕円形	40×22	3	52.9	
P8	円形	26×21	9×7	21.5	
P9	楕円形	39×34	10×4	20.2	縄文
P10	楕円形	27×20	12×8	17.2	
P11	楕円形	54×39	13×3	38.5	

3mのトレンチを5本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。試掘調査の結果、住居跡や溝等の遺構を確認した。遺構確認面は地表面から約60～70cmの深さで、道路築造部分の掘削が地表面から1m以上あるため、本調査を行なうこととなった。

本調査は2007年11月20日から12月6日まで、道路築造部分の調査を行なった。本調査の結果、奈良・平安時代の住居跡7軒と近世以降の溝1本、時期不明の土坑等を検出し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。本調査の成果は第Ⅱ部第3章に掲載した。



第16図 滝遺跡第14地点遺構配置図(1/400)、土層図(1/200)

Ⅲ 滝遺跡第14地点

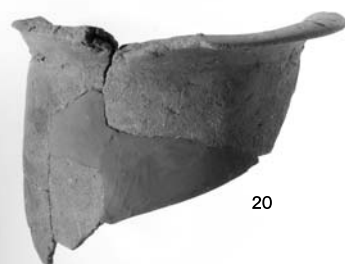
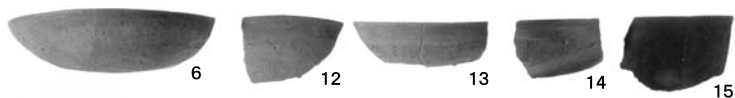
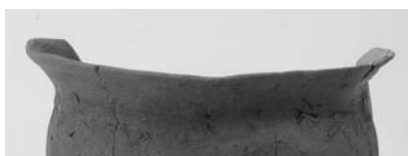
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴う宅地造成で、原因者より2007年8月20日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2007年11月8日から19日まで行なった。幅1.5～

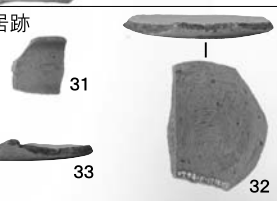
13号住居跡



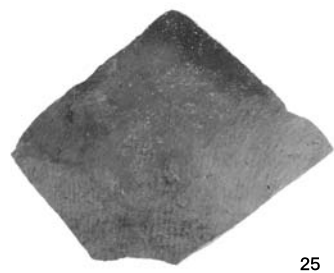
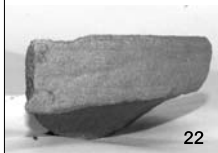
14号住居跡



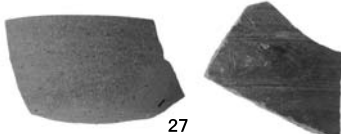
17号住居跡



15号住居跡



16号住居跡



石器No.34~37

